



TITLE:

長崎縣の[海]岸地形と其の利用景觀

AUTHOR(S):

森, 壽美衛

---

CITATION:

森, 壽美衛. 長崎縣の[海]岸地形と其の利用景觀. 地球 1936, 25(2): 130-153

ISSUE DATE:

1936-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184527>

RIGHT:

に數へられる。それ以外にも尙幾多の缺點があらうと思はれるが、筆者が微力の爲一應これだけで纏めて、より完全な研究は後日を期することにしたのである。

終に臨み種々御示教を賜り、且調査の際には貴重な時間を割いて御案内下さつた隠岐支廳の齋藤光藏氏に厚く感謝する次第である。

(十二月十日稿了)

## 長崎縣の海岸地形と其の利用景觀

森 壽 美 衛

一、緒論

三、海岸の利用景觀

二、海岸地形誌

四、結論

### 一、緒論

長崎縣は海岸の出入に富んでゐることに於ては全國何れの府縣にも劣らぬ。海岸線の複雑なことが長崎縣地方の一大特色である。内地の海岸線總延長三〇・六〇三軒に比べて長崎縣二・四三六軒は約八%に當り、各府縣平均海岸線の三・六倍に達してゐる。

侵蝕山地の沈降した南西日本は隆起地形の著しい北東日本よりも甚だしく海岸線の變化に富んでゐる。九州島は其の面積北海道の半に足らぬが海岸線の長さは反對に一倍半を過ぎる（北海道五・四八二軒、九州八・六六二軒）。南西日本の複雑な海岸地形は九州北西部から朝鮮半島の南西海岸に及んで極度に達してゐる。それであるから長崎縣は全九州の海岸線の約二八%を占有してゐる。

侵蝕の進んだ山地の沈降した北西九州の部分  
を占むる本縣は全縣舉つて半島と島嶼のみであ  
つて、海岸に平地乏しく農耕の發達に著しい障  
害を與へ、各方面に觸手を擴げた様な形をして  
ゐる半島と其の前面の近遠に散在する島嶼は海  
上活動の良根據地を提供し、陸よりも海へ働き  
かけることの便利な特相が認められる。沈水の  
深灣は天然の良港を形成し、軍事的に工業的に  
特殊の利用景が發達し、經濟文化の繁華な地域  
を前面にも後背にも有することとて、交通上・  
國防上の地位が甚しく重視されることもこの縣  
の海岸考察上の一要件たるを失はない。次に今  
まであまり顧られなかつたことであるが、各地  
様々の美しい海岸風景は觀光業地として將來考  
慮を拂はねければならない。

## 二、海岸地形誌

(1) 對馬島の海岸 略々南北の方向に細長い  
地壘島對馬の海岸は概觀すれば單調な様である

長崎縣の海岸地形と其の利用景観

が實際には小出入が頗る多い。中生層壯年山地  
の沈降したものとて、すべての谷は溺れて深  
灣は峻しい山中にまで侵入する。従つて海岸に  
は平地が極めて少く、沈水谷頭に僅かばかりの  
砂礫堆積地が發達してゐるのみである。上下兩  
島を通じて分水嶺は東偏してゐるから大きい川  
は西流し、大きい灣も西側に多い。最大の入海は  
淺海灣で、この低地は殆ど全部沈没してしまつ  
て、東から入り込む三浦灣との間に船越村の地  
峽を残してゐるのみである。これによつて對馬  
島は南北の二島に分離された。北の島には更に  
三根灣と仁田灣の侵入があるが淺海灣ほど大規  
模ではない。けれども之等は南の島の中央に在  
る佐須川流域と共に、對馬に於ける著しい東西  
方向の低所で、假に現在よりも一〇〇米低下せ  
しめたとしたらこの三低地も今の淺海灣のやう  
に奥深くまで入海となつて、對馬を南北に五つ  
に等分するであらう。

かくの如く西岸には稍々著しい數個の灣入が

あるのに對して、東岸にはそれよりも小さい入江が甚だ多い。嚴原灣・三浦灣・オロシカ灣・舟志灣・西泊灣等は東岸としては比較的大さい灣に屬し、以下小灣の連續である。而して灣頭にも西部のもの程平地を存せぬ。各小河川の口には沖積平地は皆無であると言つてもよい程僅少である。従つて農耕に適した地形は對馬全島に乏しいのであるが、東岸は特にそれが著しく認められる。然しながら内地に面する位置や、卓越北西風を避け得る關係等からして、對馬島に於ける文化地帯はこの狭い東岸に存する。廣い斜面の西岸は裏對馬と言ふべきである。本島の門戸である嚴原・比田勝二港をはじめ主なる舟泊地は東岸の小入江に臨んでゐる。西岸の港は東岸ほど船運が便でない。

全島殆ど峻しい山地のみであつて、島内に於ける住民の活動には少からぬ制約を受けるので居住地は自ら海岸に限られるやうになつて沈水灣頭に集合的の聚落が發達した。前記諸港の外

豆酸灣頭の豆酸・淺藻、内院灣頭の兩内院、久和灣頭の久和、安神灣頭の安神、尾浦灣頭の尾浦、嚴原灣南岸の久田等より、以北にも小浦、曾、櫛、佐賀、志多賀、小鹿、一重、葦見、琴、舟志、大摺、濱玖須等東岸の諸聚落は何れも同様の海岸地形の位置に發達し、西岸でも大浦、佐須奈、仁田、鹿見、三根、田等聚落の位置は地形上東岸と變る所はない。

これ等の灣頭に居を構へる住民は谷底に發見された極少の礫の多い低地を耕し、山麓地方に階段畑を營んで農作を行ひつゝ海上の漁獵に従事し、廣い面積を有する山林よりの收入を第一として生活して行く。各聚落間は峻しい山の半島によつて遮られるため、陸上の道路は甚だ不完全であるので、沿岸航路の小船が主要なる交通機關となつてゐる。出入に富んだ海岸は一般に風景が美しい。對馬で特に風景の優れてゐるのは淺海灣と三浦灣の沿岸地方であらう。緑を戴く岩骨の無數の半島・島嶼が數ふるに暇なき

諸の入江と相錯綜してゐる景觀は比類のない所で、オロシカ灣・三根灣・仁田灣等の雄大なる沈水谷風景も稱すべく、總じて對馬には男性的の海岸風景の美しいものが多い。

(2) 壹岐島の海岸 壹岐島の山形は對馬島のそれよりは全く趣を異にするけれども、其の位置と成因に於ては兩島共通點が少くない。壹岐島の海岸に沈水谷の發達してゐることも對馬島に遜色がない。島の東岸に蘆邊浦と八幡浦、西岸に湯本灣、半城浦及渡良灣が特に深く灣入する。南部の郷之浦及び印通寺、北部の勝本、東部の蘆邊等本島の主要門戸となつてゐる港は、何れも小入江の奥に發達した密集部落であるが其の他の入江には必ず聚落があるといふのではなくて、一般の人家は全島内の緩起伏面上に散在して豊かな農村風景を出現してゐる。この點友島對馬よりも亦大いに異つた景觀である。對馬島の侵蝕山地に對して壹岐島は臺地性と言ふ地形上の根本に差異あることが、對馬とは反對性

の諸相貌を呈する所以である。島内の交通も至便で、自動車路は南北東西に自由に通じてゐるので、沿岸航路は全く顧られない。

壹岐島は對馬海流の通過する所に當つてゐるので、沿岸及び近海の漁業の盛に行はれることは勿論であるから、海岸地形の漁業に對する重要性は對馬と變りはない。南岸渡良の多島地域をはじめ湯本灣の内外、北端勝本港外の辰ノ島の奇岩、海蝕洞、白砂の濱等海岸風光美は觀光地としての要素たるを失はぬものである。

(3) 五島列島の海岸 福江島・久賀島・奈留島・若松島・中通島と五島列島の主軸は南西から北東方向に直線狀に通じてゐる。島の地形は對馬に似た所が多いが、此の列島では南北性の裂線が著く現はれて數個の主要島に切斷されてゐる。對馬を更に一段と陷沒せしめた様なものである。この列島の北部には別に壹岐島と地形地質を同じくする玄武岩の臺地島宇久・小値賀の諸島があり、福江島には崎山・富江・三井樂・

岐宿等の玄武岩より成る臺地性の半島が附屬してゐる。列島の各島を切斷した南北の裂け目は更に各島々の中にも現はれて、各一二の南北方向の深い灣が北から入り込んで何れの島も凹字状となり相似形を呈してゐる。久賀島・奈留島若松島は其の標式的なものである。奈留島は凹字形の重複したもの、樺島は同じく一部が切斷さ

れたものである。最大島福江島は四個の火山岩半島が附着してゐるが、之を除くと他の島々に似た形に近づき更に一〇〇米を沈下せしめると島の中央にある二本楠<sup>ニホンダス</sup>まで北方からつづいてゐる岐宿村の沖積平野は入海となつて大きな凹字形を現出する。十二川の谷・玉之浦の深灣も中央窪地であるから、福江島は三個の凹字形の複

第一圖  
若松瀬戸附近  
(二十萬分一帝國圖「長崎」)



一五島列島中海岸の最も複雑な部分である。南北の裂線に沿ふ深い灣が多く、更に入り込んだ小支灣に奈良尾・有川・榎津・若松等の寄港地がある。

合したものである。中通島は其の形を異にするやうであるが、南北方向の裂線は依然として著しく之亦凹字の複合と見ることが出来る。

さてこれ等列島主要部の沈降地形は又一段と顯著なものであつて、峻しい山谷は直ちに海中に没入して壯大なる海岸風景を出現し、沿岸耕地の發達に大なる支障を來してゐる。河口に三角洲の發達をゆるさぬ小出入に富んだ溺れ谷の地形は、この列島では若松瀬戸に於て最大に達してゐる。列島の沈降海岸地形は南西より北東に行くに従つて著しく現はれてゐる。

宇久・小値賀諸島はすべての景觀に於て壹岐島と相似形で、福江島の四火山岩半島とも様式を同じくし、開拓よく進み列島中農産の最も豊かな地域である。

險しい山の下に風を避ける小入江に臨んで發達した漁港としては玉之浦と奈良尾を以て範とすべく、富江・福江・笛吹・平・神ノ浦等繁華な聚落は港灣の地形としては必ずしも良好ではな

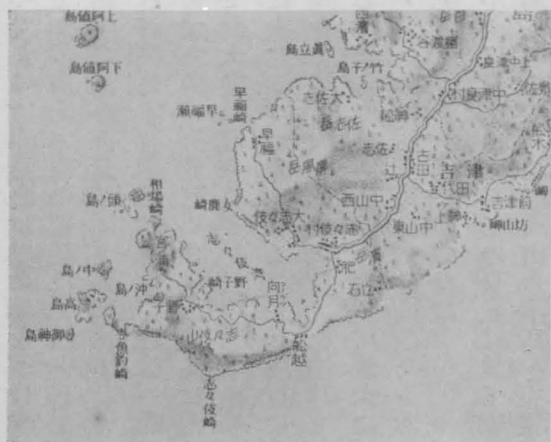
いが、島内に於て開拓の行き届いた部分を背後に有すると言ふ優れた條件があつて夫々地方的の門戸となつてゐる。同じ海岸地形であつても沿岸聚落の多くは北西面を避けてゐるのはやはり卓越風の影響によるものである。

(4) 平戸諸島の海岸 主島平戸島をはじめ大島・生月島・度島等殆どすべて火山岩より成る。

この諸島の海岸地形も前記の壹岐島・五島列島等と同様式である。殊に北部の大島・生月島・度島は岩質・成因・開拓様式等壹岐・宇久・小値賀等と相似形と言ふべく、沈降した玄武岩質の火山岩臺地であるから島内の起伏は著くなく、海岸は多くは斷崖で所々に溺れ谷の小入江があつて、之が漁船の碇泊地となり、地方的交通の要地として沿岸通ひの定期船出入し各島の門戸となつてゐる。大島の神ノ浦・的<sup>アツチ</sup>山等が其の標式的ものである。生月島も大島も共に北西面は直ちに外海に接し、且冬季の卓越風に直面するから海岸の利用は南東面に偏してゐる。

## 第二圖 平戸島南西部

(二十萬分一帝國圖「長崎」)



平戸島は其の南東半面の海岸に於ては緩かな弧線を描く比較的單調な線を示す。其の北半には田助・平戸・川内・紐差等の灣入あるも、南半には僅かに前津吉の小灣あるのみで、利用景が一般にさびしい。この島の北西半面には北端に近く薄香灣・古江灣の大きい灣入がある。南端

古田灣をはじめ多數の溺れ谷がある。志々伎の大灣の奥に船越の地峽部があつて辛ふじて志々伎山の半島を連續してゐる。前津吉の小舟泊地がこの地域の門戸となつて佐世保と連絡する。

志々伎灣の大灣入がそれと對稱的に地形に大きい變化を與へてゐる。前者は東岸の平戸・田助等が本土に直面する良灣として、又北松浦地方の中心として發達したものであるから西岸の諸灣は裏面となつてゐる。これに反して志々伎方面に於ては南東岸が一帶に出入乏しき懸崖であるため、聚落は全く北西に開口する志々伎灣の沿岸にのみ發達した。北西に面する海岸にはその他に古田灣・若宮灣及び根獅子灣等があつて海岸の單調を破る。前二者は溺れ谷としての地形が特に著く、海水は川口からはるかに奥地の谷へ侵入して島の中央低地に達し、その灣頭に夫々古田・若宮等の聚落が發達した。

海岸地形に不利な點があつても其の位置本土に面する東岸が利用度は大である。平戸島の南半では志々伎・津吉・中津良等の諸村落は何れも西岸に在り



ながら其の門戸は反對斜面の佐世保地方に面する小灣前津吉にある。島内に於てもこの方面を前目と言つて、西目（ニシメ）をこの島の裏面としてゐる。

平戸から本土へは對岸日ノ浦（平戸口）へ連絡船があつて狭い平戸海峡を短時間にして横斷する。この便利な連絡機關は平戸をして離島たるの不便を除きせしめた大島・生月島・度島への連絡はすべて平戸港を起點として行ふ。

(5) **伊萬里灣沿岸** 北松浦半島と佐賀縣の東松浦半島とは、伊萬里灣の深入によつて分たれる。伊萬里灣口には鷹島・青島等が防波堤のやうに横はつてゐるので灣は一内海となつた。灣内には又福島の大島があり今福（イマフク）の濱脇半島の突出と共に伊萬里灣を内外二部に分けた。

伊萬里内灣の沿岸は大部が佐賀縣で東岸には小出入が多いが西岸は斷層海岸をなして單調である。灣の頭部は南東に深く入り込んで伊萬里まで達してゐるが、こゝに注ぐ有田川及び伊萬里川の土砂堆積のため伊萬里港の機能が殺がれ

るやうになつた。

伊萬里外灣の南岸には今福・志佐・御厨等（シサ・ミツキ）の小港があつて、鐵道伊佐線はこれ等の灣頭を互に連結し、港に揚げられた魚類をも積んで行く。星鹿半島の内側には星鹿の小灣があつて、城山によつて北西風を防ぐ天然の良港を形成し漁業の根據地が發達した。

この地方の海岸の港は漁業根據地となつてゐるばかりでなく、北松浦半島各地に採掘される石炭の積出に利用される。炭坑の規模が小であるだけ石炭積出港の施設も小規模である。

(6) **佐世保附近の海岸** 佐世保附近の海岸は長崎縣の半島部に於て最も複雑を極めて居る部分である。平戸の對岸地方の田平地塊（タナヂカ）の海岸は玄武岩臺地の海蝕を受けた北西九州共通の地形で、以南に比べると出入も多い方ではない。田平地塊の南端の斷層崖下に江迎灣（エムカシ）が約五軒陸地内に侵入して、江迎川の下流の著く沈降したことを現してゐる。江迎港から南佐世保港口まで

の間には佐々川と相浦川が海に入つてゐる。何れも河口附近の三角洲の堆積作用は著くなくて沈水地形が優越してゐる。

このあたりの海岸は九十九島と稱されてゐる程多くの小島が散在してゐる。第三紀の砂岩・頁岩の互層が傾斜して、陥没を免れた小島上に現はれ、海水の侵蝕作用を受け、島上には緑の樹木が生茂つてゐるので日本三景の松島を大きくしたやうな風景である。其等の島にかくれて石炭の積出港たる江迎・歌ヶ浦・佐々・相浦等の繁華な聚落が發達した。佐世保軍港は之等の小出入の多い海岸から更に奥地に彎入した佐世保灣頭にある。

(7) 大村灣の沿岸 大村灣は佐世保灣よりも更に灣入の著しい大灣である。西には西彼杵半島の古い地層を基盤とする地壘が横たはり、東は多良岳火山によつて有明海と隔てられてゐる。灣口附近は北松浦半島の頸部から連續した玄武岩のメサをいただく山地の陥没した地方

で、瀬川村・針尾島・早岐町の間に伊ノ浦・早岐の兩瀬戸があつて大村灣と外海とを連ねてゐる。早岐瀬戸は狭長な溝狀を呈して、海としての形狀・機能を失ひ、伊ノ浦瀬戸が主として外洋へ連絡するものでここに急潮流の現象を見る。かくて大村灣は殆ど全く湖水の狀を呈してゐるのである。

北岸は川棚村に大崎山のメサ半島が突出し、其の頸部の兩側に小串浦・三越浦のあるあたりに變化を見るが以東は一般に出入に乏しい。この方面は大村灣沿岸としては陥没が著くなかつたか、又は河川の搬出物が多かつたのか、川棚川も彼杵川も下流に沖積平野開け、各溺れ谷を埋め盡して、新三角洲は將に一般の海岸線よりも進出せんとしてゐる。かゝる現象は本縣に於ては他に類のない所である。埋積谷は水田となり、河口三角洲には川棚・彼杵の聚落が載せられてゐる。

大村灣の東岸は多良岳火山の西麓端であつて

萱瀬川下流に發達した扇狀地が大村灣中に弧線を描いて突出してゐるのが一大特色である。扇狀地の南北兩端即ち郡川・大上戸川下流附近の水利の便ある所は水田が開けてゐるが、扇狀地面は一般に砂礫の堆積で地表の水持が悪いため海岸まで水田耕作は行はれない。畑の優越した景觀を呈してゐる。靜な海中に突出した地味の比較的肥えてゐない平坦地であるので、海軍の飛行訓練に利用され、航空隊は以前から在る陸軍の歩兵聯隊と共に、この地方をして軍用地としての特色を有せしめた。大村扇狀地の南方に突出する多良岳裾野の切解された丘陵の半島玖島崎が城地に選定され、城下町大村はその北部の内田川沈水河口附近に發達した。玖島崎はその南方に並行する久原丘の半島との間に琴ノ浦を挿み、大村地方の繁華な地域の南端を限る。鈴田川の斷層谷も河口が溺れ、堆積はまだその全部に及んでゐない。以南の目岳地塊の海岸は平地が少くて淋しい景觀をつゞけ、南方に甚だし

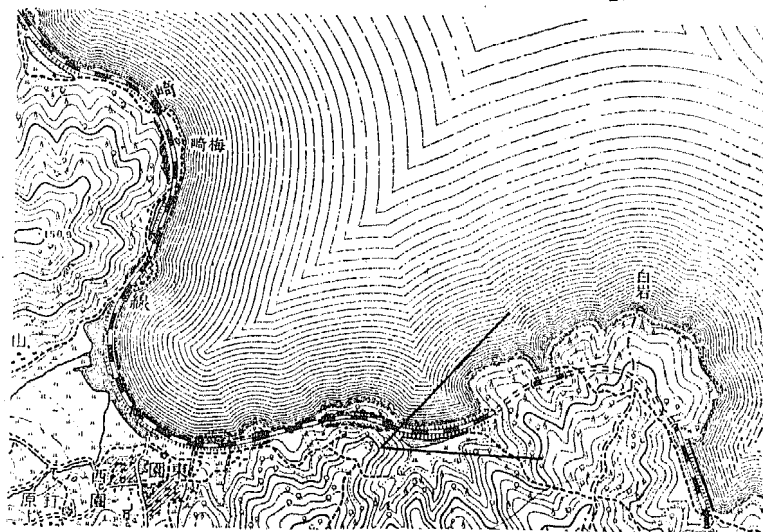
く灣入する大村灣の一大支灣は眞津山に達し、東大川等の埋立た土地が次第に發達して、かつて海中にあつたと思はれる小島數個を捕獲してゐるが、なほ沈降海岸地形を修飾し盡してゐない。

大村灣の陷没は南北方向の斷層を主として行はれたと思はれる。南岸には北方に向つて突出する半島が並んでゐる。二見瀬鼻・堂崎鼻・崎野鼻等がそれである。これ等の諸小半島は集塊質の火山岩地の侵蝕が著く進んだ山地の脊梁部が沈水を免れたものであるので、小規模ではあるが峻しい山ばかりである。其等の間の小溪流も川口附近の堆積地を殆ど現はしてゐない。大草川・伊木力川・長興川等も漸次冲積作用をつづけて來たが、まだその沈水谷の全部を埋め盡すことが出来ない。

大村灣の西岸それは所謂西彼杵半島内海の海岸で、この方面にも南北方向の地形構造が著く目立つ。西彼杵半島準平原から大村灣への陷没

### 第三圖 大村灣の南岸

(舊二萬分一地形圖 大村近傍 八號「喜々津村」)

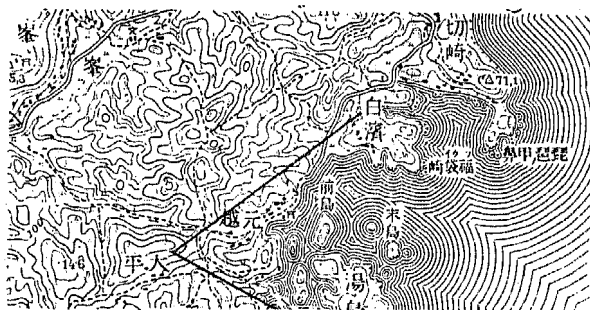


複雑な沈降海岸を縫ふ鐵道長崎本線はトンネルと切り通しによつて山脚の突出部を貫き、灣奥部を埋立て海中に築堤し直線化につとめた。鐵道線路の内側に入海を隔てゝ小耕地が開けてゐる。

### 第四圖 西彼杵半島内海の海岸

(五萬分一地形圖 長崎三號「大村」)

低い丘陵の傾斜面には階段畑開け、狭長な谷底は水田となつたが、何れも溺れて海に連続する。圖は西彼杵郡龜岳村である。



地

球

第二十五卷

第三號

四

六四

は階段斷層をなしてゐるものと察せられる。前面の山地は半ば陥没して龜岳村の東半と、長浦・村松兩村に尾戸半島・戸根半島等をつくり、主體山地との間の地溝は一部沈水して形上灣・村松灣となり、内海縦貫の主要道路の通ずる所となつた。西岸一帯は大村灣中に於て最も海岸線の複雑な方面である。大串灣は北東方向の斷層線も加つた大きな陥没の入江で、伊ノ浦・瀬戸を切つて出ると、川内浦・巢喰ノ浦・横瀬ノ浦と複雑な灣形をした相似形の入江が大串灣から北西の方へ並んで等比級數的に縮少して行く。

(8) **西彼杵半島外海**の海岸 西彼杵半島外海方面の海岸は概觀すると單調と言はねばならぬであらう。しかし高原性山地の中には構造線に従つて刻れた深い谷が屢々あつて海水が意外に奥深くまで侵入するものがある。中央部にある雪ノ浦川が其の最も著しく、内海の大串灣の延長上にある北東方向の谷が溺れたものである。河口から四軒上流の山中にある奥浦まで満潮の

海水は溯る。七ツ釜の名串島内側にも狹長な灣が入り込んで、それに注ぐ小流の谷底には何れも海水が深く進入してゐる。北端に面高・黒口南端に三重等溺れ谷の頭部には夫々集合的の聚落の發達を見る。

外洋の荒波に洗はれる高原の縁には全く平地を存在せしめぬが、崖下や河口に小さい砂礫の堆積地を開いて居住地を興へてゐる。雪ノ浦・神ノ浦等夫々同名の河口に發達した小砂洲を利用したものである。海岸に耕作地は自由に得られぬから一般に淋しい風景である。

海中に沈没した第三紀層中には炭層が豊富なので、近海の島嶼・崎戸・松島等には炭坑發達し、ここを坑口として遠く海底の石炭を採掘する。瀬戸は半島と松島との間にある海峡に面する聚落で半島部外海のほぼ中央にあたり、この方面の中心地となつてゐる。又探炭島松島への渡し場ともなり、瀬戸に散在する大小の島々は風光も美しく、この海岸に於て最も重要な地で

ある。

### (9) 長崎附近の海岸

長崎灣から北西三重の灣までの間にはリヤス海岸の地形が認められる。この地方にも西彼杵半島のやうに北東方向の谷が卓越してゐる。集塊質の火山岩地で侵蝕の著く進んだ時期に沈降作用を受けたため、各河谷は何れも浸水し山脚は半島となつて終るやうになつた。従つて海岸附近に廣い平坦地を有しない。灣頭には畝刈・相川・式見・手熊・小浦・小江・福田・大浦・木鉢等の聚落があつて漁港としての利用が最も大である。けれども交通不便のためその發展は活潑ではない。最南の長崎港に至つて灣の規模と利用景とが極大に達する。

長崎灣もこの地方一般の谷の方向に従ひ北東に入り込んでゐるが、こゝには大村灣を陥没せしめた南北方向の構造線も現はれて、大村灣南岸の時津港から正しく南方へ發達した低地帯が影響して、長崎灣はその頭部が北方に轉向し、浦

上川口を溺れしめた。奥深く陸地に入り込んで防波堤も要しない天然の良港長崎は幕府時代唯一の貿易港として、地形の許す限度を超へて發達した。大船時代になつてもこの水深大なる灣は支障を來さなかつたが、我が國經濟上の位置や後背地等の關係から商港としてはさびれて來た。そして溺れた支灣の深い地形を利用した三菱重工業會社の造船等の工場によつて市の繁榮が維持されて行く。

### (10) 野母半島の海岸

沈水谷の小灣が山地に侵入してゐる地形は長崎港内から港外へ更に野母半島へと相似た景觀が連續してゐる。小ヶ倉・土井ノ首・深堀等の海岸地形は長崎灣の支灣小菅・戸町等の延長である。陥没を免れた第三紀層の上部の地塊が香焼島・伊王島・高島等の諸島となつて長崎港外に散在し、出入に富む地形でありながら山地の島内も海岸も利用されることが少い。長崎に近い島では鼠島のやうに市の近郊として僅かな砂濱を求めて夏季海水浴場と

して賑ふ所もある。やや離れた高島・二子島・端島は北方の崎戸島・松島と同様式の採炭が行はれ、炭坑の諸施設よく整ひ、炭坑聚落として孤島が極度に利用せられ、端島の如く比類なき文化景觀を出現したものである。

野母の地壘半島も斷崖が多くて平地に乏しいが北西の半面は南東のそれに較べて一般に利用度が高い。半島尖端部附近に於ては野母の灣、脇岬のアキモツキ小半島・樺島等が特別なる變化を興へてゐる。野母・脇岬・爲石等の密集聚落は何れも斷層海岸の崖下に發達した砂洲の上にあつて、僅かの平地がよく利用せられてゐる。樺島は北に開く狭小な入江の兩側にのみ人家の集合したもので、脇岬・野母と共に良好な漁業根據地を興へてゐる。

(11) **橘灣沿岸** 野母半島南東岸から北高來郡南岸、島原半島西岸と斷層地形の海岸が陥没した橘灣を圍む。有喜斷層海岸・千々石斷層海岸は斷崖の地形輪廻も極めて幼稚であるし、海岸

線は殆ど直線的で大きな變化を受けてゐない。一〇〇米内外の急崖が直ちに橘灣に臨む風景は誠に壯觀でこの種の地形の典型的のものである。小濱以南の海岸では雲仙岳火山を下る多くの川が斷崖を切つて出る。其の川口も亦多くは溺れてゐるが、末端切面は懸崖をなして美しく並んでゐる。海岸聚落は多くは河口附近にあつて北部では南本村・木指・金濱のやうにほぼ一般海岸線まで河口堆積地が進出して其處が人家の所在地となつてゐるが、南部では飛子・京泊等入江がまだ深く殘されてゐるので聚落はその入江に面する傾斜面に在る。

橘灣沿岸には前記野母半島のやうに砂嘴や砂丘が多く發達してその上は亦よく利用されてゐる。網場の砂嘴は完全に漁業聚落を以て蔽はれ、矢上東房濱砂洲は長崎郊外海水浴場として季節的に特殊利用景を出現し、江ノ浦下釜の砂洲は規模小であるが現今の聚落ばかりでなく史前時代から人類の居住地となつてゐた様である。有

喜斷層崖の東端と千々石斷層崖の西端との間は一條の砂洲を以て連結され内側の入江は漸次水田化した。この砂洲は大きい礫が多く満面樹木にて蔽はれ全く開拓されてゐない。

千々石の砂丘は橘灣沿岸に於ける最も規模の大なるもので、千々石斷層崖下の鹽屋から南東に直線狀に約二軒延長し、内側に發達する千々石川の堆積を促進せしめて良好な水田地域を出現し、千々石川の流路をして著しく屈曲迂回せしめてゐる。砂丘には植林されて飛砂を防ぎ、北に鹽屋南に鹽濱の聚落發達し、磯濱は海水浴場利用せられる。千々石の南方には寄生火山猿場山の西岸崖下に小さい連繫砂洲が發達して木津の聚落を載せる。

橘灣の中央部に突出する國崎半島は基部が連繫砂洲でその上には漁家も點在する。中塚の水田ある小盆地の西側海岸にも一條の低い砂洲があつてその内側に自動車の通る道路が設けられてゐる。國崎・串崎間は串山鎔岩臺地の末端で

南北方向の單調な海岸線を有し、時に一〇〇米に垂んとする懸崖の海岸である。崖下には大きい圓礫の濱が斷續して辛うじて道路を通じ、二子岩のやうに集地岩の奇岩も殘されてゐる。臺地を流れる小流はこの嶮崖を切つて二三個處で海に入る。その谷口に小津波見・津波見等の聚落が發達し、海岸の礫を整理して小舟泊地をつくつてゐる風景も趣がある。

串<sup>シ</sup>以南には岩戸山まで砂洲が伸び、岩戸山・女島山間にも著しい砂の堆積が出來た。そのために堀川の沖積が進んで内側に田畑の開けた平野の發達を見、又飛砂防止の植林・良海水浴場等の景觀は千々石と同様式である。水月<sup>スイゲツ</sup>の大聚落は堀川河口の砂丘上に發達したものである。早崎の熔岩臺地半島の西岸にも砂丘が發達して植林が行はれてゐる。

かゝる砂洲の地形は獨り本縣のみに止らず更に南方天草諸島にも及び、二江の西では通詞島に向つて尖角砂嘴が突き出で通詞の部落を載せ



富岡ではそれよりもなほ規模の大きい砂地が發達して連繫砂洲を形成し富岡の街の位置を決定し、巴浦を圍む砂洲も生長してゐる。かくて橘灣沿岸は斷層海岸と砂丘地形とを以て縁取られたるの觀がある。

#### (12) 島原海灣の沿岸

島原半島南端の早崎から島原附近までの海岸は、有馬川口を境として南部の上原熔岩臺地及び第三紀層の海岸と、北部の雲仙岳の火山海岸とに分けることが出来る。前者に於ては口之津港の灣入と原城址の突出とが最も大きい變化を與へてゐる。口之津港内には以前繁榮時代の石炭置場が築かれて自然の海岸線に著しい工作が加へられてゐる。口之津・大屋等の街村聚落が環狀に灣の周圍を繞る。大江の東には第三紀層の臺地があつて小半島を形成し、これが城地として利用せられ、島原の亂に其の名を高からしめた。

雲仙岳の火山海岸は一般に單調である。有馬川口から須川までは裾野の侵蝕が其の他の部分

よりも進んでゐるので、海岸に多少の出入はあつたが、鐵道線路敷設等によつて幾分の加工があり、平滑化せられた。須川・蒲河間は有家川沖積地の滑かな海岸であるし、蒲河・安徳間は扇狀に開けた裾野の緩傾斜地の海岸でこれ亦變化に乏しい。ただ布津斷層によつて裾野面に齟齬を來し、大崎鼻の突出と懸崖を見るのみである。

島原湊附近では眉山の崩壞物が海岸まで押し出したために著しく海岸線の變化を來たし、小丘・小半島・小島が散在して九十九島と稱せらるゝ風勝地を現出した。

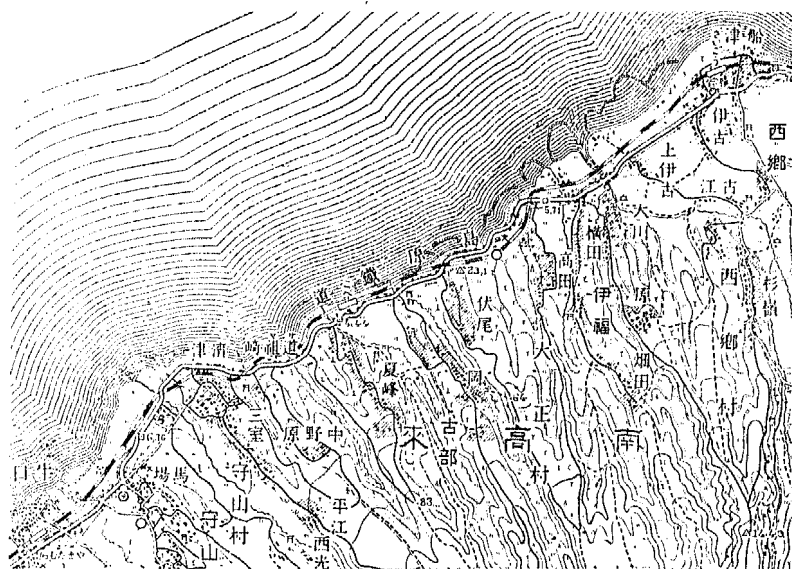
#### (13) 有明海の沿岸

島原附近から守山村まで所謂島原半島北目地方の海岸は雲仙岳火山裾野の末端で單調な火山海岸である。裾野を刻む各河川の下流に於ける堆積は著くなくて、開析され行く丘陵の末端を連ねる線が一般の海岸線となつてゐる。丘陵上の緩傾斜地は畑、河谷から河口附近は多くは水田、丘陵の縁が居住地とな

第五圖  
島原半島北目の海岸  
(五萬分一地形圖 熊本十五號「諫早」)

地

球



第二十五卷

第二號

雲仙火山北麓の解析は次第に進んで裾野の谷は開け、河口に沖積地が發達しつつある。西郷・古部間及び濱津・牛口間の海岸に各々十餘の「スクイ」が記される。

二票

七〇

つて海岸地方は極めて聚約的に利用されてゐる。此の海岸には一般に「スクイ」と言はれてゐる石を以て疊んだ堤防状のものを馬蹄形に築いた漁場を設けてゐるのを特色とする。潮の干満が甚しく、又裾野は多く集塊岩の堆積であるため、築造に要する礫が得られ易い等の條件がスクイの發達を促したものであらう。

センネカイ  
泉水海西岸地方は海底が特に

遠淺で、有史時代に干拓が屢々行はれた。自然の海岸は今日の丘陵の麓と平野との接觸線であらうが、現今はそれより數軒の沖に築堤して開墾された新田を護る。山田・愛野・森山・小野・長田等の諸村の水田と海岸線は

## 第 六 圖 湯 江 の「ス ク イ」



「スクイ」のある海岸は遠浅で礫が多く轉つてゐる。靜  
な泉水海を隔て、前面に雲仙岳火山の秀峯を望む。

皆斯うして出来たものである。遠浅の海底はなほ現海岸線よりも遠く沖合までつづいて、干潮時には二―三軒の間全く泥土の地帯と化するもので、これも漸次開墾して行く計畫がある。最新

の開墾地にはまだ作付が行はれてゐないものもあるが、干拓地の大部分は稲作地となつて縣下第一の水田平野の景觀を見るのである。有明海は内地第一の干満潮水位の差の大なる海であるから津浪等の災害も大きく、干拓地域に於ては護岸工事、排水方法等に特に考慮が拂はれねばならなかつた。開墾新田の中にはすでに小野村新地のやうに散在的の聚落が進出してゐる。低湿地であるから住宅は特に盛土をして高くし、海泥堆積層の下より得る飲料水には井戸の構造に格別留意されねばならなかつた。この地域では主要道路も鐵道も舊海岸線附近を通じてゐるので、沿岸には農耕に必要な通路があるのみであるし、海岸には港等全く無く、干潟の泥中で「ムツゴロウ」を獲得するにも「ハネ板」と稱する此處獨特の板舟を利用して泥上の往來をする等、本縣下に於ける特異なる風景が見られる。

泉水海の北岸即ち多良岳火山南東麓地方の海

岸に於ては、火山麓の切解された地が沈降した海岸のこととて、解析丘陵端の半島、沈水谷の入江と小出入に富んだ地方であつた。南西部の遠淺な海岸は所々に干拓が行はれ、又湯江扇狀地の突出もあつて海岸線の單調化が行はれた。

この方面に於ても主要道路はほゞ舊海岸線の位置を示すものと見ることが出来る。埋立や開墾が行はれても沈降地形はまだ修飾し盡されないで有明川・本明川・深海川・長里川等三角江の形をよく保存してゐる。溺れ谷の地形は北東小長井村に密に發達して、聚落の位置や道路等に及ぼす影響が著しく現はれてゐる。

### 三、海岸の利用景觀

(1) 聚落占居の様式 海岸平野及び沖積平野の少い沈降海岸に於ては入江の灣頭に人家が集合する。對馬の諸聚落は其の最も甚しいもので平戸諸島・北松浦半島・西彼杵半島等に於ても同様式である。又他の府縣に於ても例へば三陸

のリアス海岸・紀伊半島の海岸・豐後水道沿岸等相似た地形の海岸では共通の形式の聚落を見る。

西彼杵半島のやうにまだ高原平坦面が廣く残つてゐる所では其の高原面や傾斜面にも居住地が多く分布してゐる。上五島方面のやうに低い所にも高い所にも平坦面を存せぬ島では家屋は急傾斜面に階段狀に並ぶ。

雲仙岳火山及び多良岳火山の裾野では圓錐面と海水面との切する線に最も多くの聚落が集合するので、主要聚落は此處に相連續して環狀をなしてゐる。而して其の形狀は裾野の侵蝕地形の若い程單調で、侵蝕が進めば解析丘陵端に集合するやうに變形する。前者は島原附近、後者は島原半島の北目・多良岳南麓等である。

(2) 耕作地の經營 沈降海岸は一般に平地に乏しく廣い耕作の適地が少ない。遠淺な海を開墾した泉水海の海岸に諫早平野があつて、北松浦半島をはじめ各地の斷層谷と、雲仙・多良兩

火山麓の侵蝕谷の河口附近に小面積の沖積地の發達してゐる所と共に水田の經營が行はれてゐる。雲仙・多良兩コニーデ火山の裾野面は海岸まで畑、壹岐島・平戸大島・生月島・宇久島・小値賀島・福江島等の熔岩臺地も畑作の優越する所となつてゐる。西彼杵半島・野母半島・北松浦半島等の斷層海岸の急傾斜面には階段畑が設けられ、總じて本縣は水田よりも畑の多いのを特色としてゐる。而して侵蝕の甚しく進んだ山地の海岸對馬及び五島では耕地極めて少く、急崖の所々に階段畑が點在するに過ぎない。

(3) 陸路交通 海岸が出入に富んでゐることと懸崖の多いことは共に陸上交通に大なる支障を與へる。相連續する半島の交通系を大觀すれば何れも海岸を大迂回するもののみである。又縣下各地に見ることの出来るのは沈水谷に於ける海岸に沿ふ道路の屈曲であつて、西彼杵半島・黑崎附近・面高附近に於て其が特に著しい。而もその上垂直的にも變化が多くて道路は上り下

りを頻繁に繰返すのである。

火山海岸に於ては坦路を設けることが容易であつたため道路景は單調である。特に雲仙岳・北東半面のやうに若い地形に於て最も便利である。切解の稍々進んだ多良岳の海岸では幾何かの屈曲が現はれてゐる。斷層海岸は千々石・大村灣沿岸・北松浦半島のやうに大いに交通路に制約を與へ、壯年山地の沈降海岸は對馬の如く殆ど海岸の通行を不可能ならしめた。

(4) 海上交通 海岸に深い入江があつて天然の良港となつてゐる所が沈降海岸には數多い。しかし何れも後背地との連絡が不便で、それが十分に活用出来ない。半島島嶼が無數に散在して前面との往復の必要な本縣に於ては、各地連絡の沿岸航路が極めてよく發達してゐる。就中狹長な灣や水道に於てはその横斷航路は頗る重要である。長崎港内には東西横斷連絡路が數條あつて、西岸の工場地帯と東岸の商業地帯及び勞働者居住地帯とを完全に結んでゐる。この航

路風景は瀬戸内海の文化海岸交通系を縮少したものと見ることが出来る。大村灣の最奥にある一支灣は鐵道線路をして諫早に大迂回せしめるから大村・大草間の連絡船が發達して、汽車によるよりも短時間で且つ廉い賃金で兩地を連結する。

海岸線の出入の多いことは碇泊に便ではあるが、又一方には半島回航の場合が多く、徒らに航路を延長し、時間と動力を多く消費せしめ、且つ暗礁・顯礁等にも留意しなければならぬ不便な事がある。

地峽地形の甚しい所では兩側の船舶は迂回路を避けて、其處を特殊の力によつて横斷しようとする。之が現今の進歩した施設では運河であるが、昔の方法としては多人數かつて舟を負ふて運んだのである。斯る地形の所に發達した聚落には多く船越の名がつけられた。現代の運河入口に發達した聚落と比すべきである。對馬上下兩島間の大船越・小船越、壹岐島渡良半島

頸部にある船越、平戸大島の山の船越、平戸島南西端に近い志々伎村の船越、佐世保南西部俵ヶ浦半島頸部の船越、諫早の船越等は何れも斯うした地峽に當つて、其の利用景觀を同じくしてゐたものである。他府縣の地方にも此の種の船越が數々ある。大船越は地峽の幅が最も短くて大きい船を越さすことが出来たからで、小船越はこれに反する地形の場所である。對馬島の大船越は人の開鑿によつて切開され今は南北の水が相通じてゐる。後に軍事上の必要から切り通された玖須保の水道と共に此の地方の交通に大變革を來したものである。諫早の地峽は今日は約九杆の幅を有するので到底船を負ふての横斷は不能であるが、これは最近の時代に此處に沖積地が擴大したためで、以前は今よりも幅がずつと狭かつたのであらう。現在の地形に於ても大村灣と有明海との干潮極點の間隔は約二杆であるし、若し又この附近の海岸線が今より僅か一〇米沈下したとすれば、小船越附近に於て

この海峡の幅は三〇〇米以下になつてしまふ。かうなれば船越作業は容易に行はれるであらう。

(5) 漁業 半島・島嶼は廣く散在して、其の何れの海岸も小出入に富むので漁業の根據地たるに最も適してゐる。之は本縣をして全國一の水産縣たらしめた條件の一として擧ぐべきである。

海岸近傍に耕作地が満足に得られぬことは住民の海上活動を更に促進せしめ、灣頭の聚落はすべてが漁業部落となつたのである。一般に漁業者の多寡が海岸聚落の大小や榮枯を決定してゐるやうである。

(6) 工業 長崎灣支灣の溺谷が造船工業地として利用せられ、佐世保灣の同様の地形が海軍工廠の一部をなす等、工業上・軍事上天然の地形が巧に利用せられてゐる。

其の他の各漁港に於ても船舶の建造・修理・貯油・貯炭・製氷等海上作業に必要な工作作

業が海岸に於て行はれ、干魚・煮魚等の水産製造工場も各所の海岸に建設されてゐる。

(7) 觀光業 沈降海岸は一般に變化に富んでゐて風光が頗る美しい。長崎火山群地方の海岸に屢々露出する集塊岩、島原附近の火山裾野の平滑なる海岸、橘灣沿岸の砂洲、南北兩所の十九島の多島、北松浦半島及び壹岐島の硬軟互層の第三紀層海岸から對馬島・五島列島の中生層の雄大なる山地の海岸、淺海灣・若松瀬戸等の極端なる屈曲等各地夫々獨特の景觀を出現してゐる。

微細地形として探れば長崎港外福田・壹岐島北端辰ノ島・西彼杵半島外目の海中に孤立する大角力 of 海蝕洞等、大きく見渡す場合の内灣上に聳へる雲仙岳・多良岳、雄大なる山地の巨體を洋中に横たへる對馬・五島・畑を戴くやさしい火山岩臺地の浮ぶ壹岐島・小値賀諸島等舉ぐれば盡さぬ海岸の風光美、其を斯くも豊富に所有する長崎縣は他に比類のない所である。觀光

産業發展に對する長崎縣の有する要素は海岸地形のみより見ても誠に豊富であると言ふべきである。

#### 四、結 論

以上長崎縣の海岸地形に就いて概観して來た要約は緒論に述べて置いたから茲には所感の一二を記して結びとしよう。

長崎縣の市町村總數は一八六、その中海岸を有しないものは僅かに一〇あるのみである。町村の瀕海率から見てもかゝる府縣はあまり類例のないことで、長崎縣地方は海國日本のうちの海國である。従つて一般住民の海に親しむと云ふことは恐らく何れの地方に比しても遜色のない所であらう。

海に親しむと云つても只漫然と海に乗り出せばかりでは意味がない。海岸地形に於て他に勝れたる點をよく理解して、其の利用價值を一層高めて行かねばならぬ。あらゆる方面よりの綜

合觀察によつて其の優越條件を考究し、其を益々伸展せしめねばならぬ。長崎縣の海岸地形に於ては人間生活上不便な點もあるが、他地方の到底追従を許さぬ優越性を認め、これを一層發揮して行くことに努むべきである。商港としての長崎が淋れたりするのは、其の位置上よりして寧ろ當然のことで、かゝる非優位的條件よりは先づ水産方面なり觀光業なり其の有する條件の優位なる事項に注意せねばならぬ。(昭和十年十月)

#### 參 考 文 獻

- 一、山崎直方・佐藤傳藏 大日本地誌 卷八
- 二、辻村太郎 日本地形誌
- 三、下村彦一 海岸地形 岩波講座
- 四、帷子二郎 九州の地形概観 日本地理大系(九) 九州篇
- 五、小川琢治 九州地方の海岸 日本地理風俗大系 九州地方上
- 六、辻村太郎 日本の海岸地形に關する二三の問題 東洋學藝雜誌 第四十一卷
- 七、辻村太郎 日本に於ける海岸地形の分布 東洋學藝雜誌 第四十四卷
- 八、小川琢治 海岸に就いて 地球 第三卷



九、森壽美術 長崎縣地理概要

一〇、森壽美術 地理學上より見たる長崎縣の特色 長崎縣師範學校郷土研究錄 第一輯

以上の諸論文中海岸地形に關する部分は本文の基礎をなすものである。従つてその中に輯録されたる文獻はこゝにはすべて省略す。

一一、森壽美術 多良嶽西麓地方の地理的景觀 地球 第十二卷、第十三卷

一二、森壽美術 西彼杵半島の地形と文化景觀 郷土科學 第十一號

一三、森壽美術 橘灣沿岸の地形と文化景觀 地理學 第二卷

以上の小著中海岸に就て既述の事項は本文中には詳記しないやうにつとめた。而してその中に載せてあるカットもここに必要と思ふものがあるけれども重複を避けて、其の他のものを小數掲げるに止めた。

一四、海軍水路部海圖 長崎縣地方の各號

長崎縣の如く要塞地帯、秘圖地帯の多い地方に於ては地形圖は望み得べくもあらず、帝國圖も明瞭を缺くので海圖は一段と効果的である。特に海岸地形の觀察に於て然りである。

## 新著紹介

新著紹介

## ○日本の産業と貿易の發展

三菱經濟研究所 定價三圓七十錢

三菱の經濟研究所からは定期刊行物も出てゐるが特別刊行物としてききに「世界經濟の現勢」を出版し「東洋及び南洋諸國の國際貿易と日本の地位」を刊行し、今回更らに本書を世に問はれた、さうして本書は實に先行の二書を序論としたもので、いはば本論が世に出た次第である、研究所員として佐倉氏以下十五氏が各々其専門の部門にわかれて、資料蒐集の上で記されたものであるから全篇いづこにも無駄な所はない、長岡理事の序文に見ると日本への西歐學者の關心は異常なもので倫敦からはギウンター、スタイン氏、米國ミジガン大學のリーマー教授などが昭和十年の夏やつてきて、いろ／＼日本の輸出貿易や其他國爲替の低落等について研究したさうであるが、長岡氏はこの兩氏にそれぞれ資料を公開して、日本が獨りケレンや手管でその貿易の進伸をしめたものでないことを證明したといはれ、新興日本の世界の脅威となつてゐるあらゆる産業方面の喜ばしい發展を叙述されてゐる。目次は第一部本邦經濟最近の發展、第二部本邦産業發展の背景、第三部基礎産業として農、漁、鑛、電の四部門を論じ、第四部主要工業としての纖維、機械、化學、窯業、食料品、其他について該博な資料と説明を加へ、第五部金融及運輸、第六部本邦外國貿易の進展を細述したもので、菊倍版七三三頁の大冊子である、これが僅かに三圓七十錢とはまことにやすい。さう